

	教師かやりか いをもって働 くことができ る魅力的な環 境づくりを進 めます。		③教職員の業務適正化等に取り組 み、児童・生徒に教員が向き合う時間 を確保する等、ウェルビーイングを高 める取組を行っている。	1:「おおむねできた」と回答した教員が 60%未満であった。		「自己活動を通し て、自分の考えを 深めたり広げたり していたか」	主 6 % 以 上		C		のために、地域教材の開発を学年ごとに実施し実現した。また 区教育研究会や区の年次研修者研修の代表として4名が授業 を実施した。		の活動など充実した学習を検討・実行されていると 考えています。								
				4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。		「授業の目標がよく わかるもので あった」 で肯定的回答をし た割合	1: い ず れ か で も 6 0 % 未 満		D		●教職員の最終退勤時刻を20時目途とし、連続超過した教職 員には理由を聴取り、支援等による業務軽減を実施した。勤務 年数が3年未満の教職員にはメンターを個別に指定し、メン タル面での相談や支援を実施した。学期末には成績処理や補習 の必要な児童への指導のために支障のない範囲の授業カット を実施した。4年生以上の学年内教科担任制や計画年休を実 施した。男性の育児支援休暇取得者2名、病気休職者1名。		・よく頑張っていますが、もう少しポイントが上がる ように願っています。								
た自個 めの分 学し標 びく5 いを き援 いきと生 きる	困難のある児 童・生徒一人 ひとりの状況 にあわせて教育 環境を整える とともに、相談 機能の充実に 努めることで、 すべての児童・ 生徒が自分ら しくいきいきと 生きるための 学びを支援し ます。		①インクルーシブ教育システムの構築 に向けて、教員の資質・能力の向上や 校内における支援体制の充実、特別 支援教室巡回指導教員との連携等を行 っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねでき た」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねでき た」と回答した。	4	【児童】 ●学校生活アン ケート 「学校は楽しい」	4: 9 0 % 以 上		A	7	①「学校は楽しい」94%(昨年度比－3%) ★全国調査より21%高値(昨年度比＋8%) 「学校に相談できる大人がいる」92% (昨年度比－1%) ②「我が子は楽しく学校に通っている」96% (昨年度比±0%) ③「学校は児童の様子や保護者の相談を受け止めて対応して いる」95% (昨年度比＋5%) ①特別支援や児童理解に関する教員研修を学期に1回以上実 施するとともに、毎週末には生活指導に特化した職員連絡会を 開催し、情報共有を通して指導方針の確認や多面的な児童理 解を図っている。また巡回心理士やスツテークカウンセラー が各教室を定期的に参観し、気になる児童への支援や指導の 留意点について助言を受けている。 ②毎週末に対面で生活指導タカを開催し、児童の問題行動等 の共通理解を図り、早期解決や適切な指導を組織的に推進し ている。いじめの認知件数は1月末現在で272件。昨年度より 144件増加。微細ないじめも見逃さずに対応するようになった。 3か月継続観察案件は校長が月末に保護者に確認し、継続案 件は0件。重大事案も4年間連続で起きていない。不登校傾向 の児童6名については毎月対策委員会を開催し、アプローチを 検討した結果、4名の登校が増えた。 ③スクールカウンセラーの相談件数は1月末までのべ●●●件 で相談枠が足りないくらい活用できている。スクールソーシャル ワーカーは2件の事例で相談中。今年度は、区福祉課主催の 重層的支援会議や児童相談所、少年センターなどと連携し継 続して対応中の事業が2件加わっている。できるだけ複数で相 談にあたり多角度から対応すること及び寄り添い傾聴すること に努めている。	B	2	・児童も頑張って学校を楽しんでよいです。 ・いじめや不登校などさまざまな悩みを抱える児童 に対し、校長を中心とした組織的な支援体制が確立 されている。 ・管理職がリーダーシップを発揮し、担任や専科教 員、養護教諭、関係機関と連携しながら、情報を共 有し、迅速かつ丁寧にに対応している。 ・学校は楽しいと思えることが一番だと思います。 いじめを見極めるのはとても難しいと思います。子 どもたちの年に近い教員の方も多いので気持ち を分かってあげられるように思います。 ・いじめ、トラブルや児童個人の課題は原因・影響も 様々で防止が難しいケースも多々あると理解しま す。事後の対応、保護者と関係者との連携が各先 生方の経験・能力に依存せず、当事者の納得を得ら れるサポートを期待します。							
安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的 境な学 習空間 ります安全	学校施設につ いて、ICT環境 等の教育環境 の整備を推進 するとともに、 児童・生徒の安 全・安心を向上 させるための 教育を推進し ます。		①学校や地域の伝統・特色や、安心・ 安全な学校生活づくりを踏まえて、学 習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねでき た」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねでき た」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が 60%未満であった。	4	【保護者】 ●教育活動に関 するアンケート 「学校は施設整備 や熱中症予防対 応などに努め、こ どもが安全に生 活できる環境づ くりをしてい る」 で肯定的回答をし た割合	4: 9 0 % 以 上 3: 8 0 % 以 上 9 0 % 未 満 2: 7 0 % 以 上 8 0 % 未 満 1: 7 0 % 未 満	4	A	8	●「学校は安全な環境づくりをしている」99% (昨年度比＋15%) ①校舎の外壁工事中だが、大幅に評価が向上した。運動会や 学芸会なども保護者の理解と協力を得て大きな混乱なく実施で きた。事前にOS会議やPTA執行部の皆様に相談のっていた いたおかげでもある。体育館裏の死角は、CSからの要望が 通り、区に改善していただけたこととなった。 ①図書ボランティアと図書委員会児童の連携による学校図書 館や図書コーナーの掲示や展示の充実、CSのガーデンス ーパーと栽培委員会児童の連携、食育コーナーや算数室後 方の体験活動コーナーなど充実にも努めた。また夏休み前 のタブレット端末の点検・整備を実施し、2学期以降の活用 の推進が図れた。 ②月1回の避難訓練を区の防災課や消防署と連携し様々 なケースを想定して実施した。授業以外にもおやじの会の「お泊 り防災体験」では希望する児童が参加し防災への意識と知識 を深めた。また警察署や企業と連携して不審者や連れ去り防 止、交通安全などの安全教育をロールプレイや実地訓練を通 して学ばせた。	B	1	・以前より向上していてよいです。 ・安全・安心な学校づくりのために、校長のリーダ ーシップのもと、教職員が組織的に見守りや安全点 検を実施している。日常的な巡視や定期的な施設設 備の点検を丁寧に、課題が見つかった際には速 やかに改善につなげている。 ・制限・条件のもとで安全に楽しむこと、活動を充実 させることという点で学校の理解・協力は大きか ったと考えます。運動会の開催方法について等、子 ども自身や担任の先生方の声を伺えたことも大 変、有意義でした。	C						
核学個 校別し・目 て家標 庭7 学・校地を域 つくり連携 ます・協働 による地域コ ミュニティの	地域コミュニ ティの核とし ての学校づく りや地域の特 色を生かした 学校づくりを 進めるととも に、学校・家 庭・地域が連 携・協働して 、地域社会全 体で子ども たちを育成し ます。		①「地域コミュニティの核としての学 校づくりを目指して地域と学校が連 携・協働した様々な活動を実施してい る。 ②登下校の見守り活動等の、児童・生 徒の健全育成や安全指導に係る取組 を地域の協力により実施している。 ③家庭教育に関する情報の発信や PTAなどと連携した講演会・学習会、 またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねでき た」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねでき た」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が 60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねでき た」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねでき た」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が 60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねでき た」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねでき た」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が 60%未満であった。	4	【児童】 ●学校生活アン ケート 「地域の人に挨拶 をしている」 「地域や社会をよ くするために、み んなで使う公園 などを誰もが気 持ちよくなるよ うに 使っている(4～ 6年生)」 で肯定的回答をし た割合 【保護者】 ●教育活動に関 するアンケート 「家庭では、挨拶 などの基本的な 生活習慣やマナ ーについて教 えている」 「家庭では、学校 行事や地域行事 に積極的に参加 している」 で肯定的回答をし た割合	4: 9 0 % 以 上 3: 8 0 % 以 上 9 0 % 未 満 2: 7 0 % 以 上 8 0 % 未 満 1: 7 0 % 未 満	4	A	7	①「地域の人に挨拶している」93%(昨年度比－2%) 「公園などを誰もが気持ちよくなるように使っている」97% (昨年度比＋7%) ②「家庭では生活習慣やマナーの躾をしている」98% (昨年度比＋1%) 「家庭では学校や地域の行事に積極的に参加している」88% (昨年度比＋3%) ①本校の最大の強みは、地域の皆様へ温かく見守られ、支 えられていることである。児童は地域やPTA・おやじの会 の魅力的な行事に積極的に参加し、人とのふれあいや関わり の中で育つことができている。今後も地域や家庭との連携を深 め、児童の地域行事への参画意識や貢献度を高めることで未 来を担う社会性を培っていくたい。 ②コミュニティ・スクールで、通学路の安全について情報共有 や協議を実施し、危険箇所を実地踏査して警察署および教育 委員会に要望書を提出した。また、日々の児童の地域での様 子を学校に知らせていただくことで、早期の対応を図ることが できている。児童には安心・安全な町づくりに「明るい挨拶」 で貢献させたい。 ④道徳授業地区公開講座と情報モラル講習会は、公開授業 や保護者会の前後に実施したため、30人以上の保護者に参 加してもらったことができた。体育健康推進講座や学校保健 委員会も方法を工夫していく。	B	2	・町会長を中心に、地域の皆様が学校教育に変 革、協力的である。行事や見守り活動、防災訓練などに 積極的に参加し、防災訓練などに積極的に参加し、こ どもたちの成長を温かく支えてくださっている。 ・学校と地域が日常的に連携し、情報を共有しな がら協力体制を築いている。地域ぐるみで育て ようとする風土がしっかりと根付いている。 ・日々のパトロールで通学路の危ないところを確 認でき、周知できるよう、今後も注意していきたい です。 ・地域の人への挨拶はなかなか難しいと思いま す。校内で大人に挨拶できる児童は少ないと感じ ています。 ・通学や行事などにおいて地域との関わりは非常 に充実していると感じる。一方で公園での遊び方、ご みの授業、万引き事案等、校外、放課後の行動につ いて方々から話が入る状況は憂慮される。全件 の対処が難しくとも、注意喚起・意識づけが継続し て必要だと考えます。(保護者を含めて)	C						